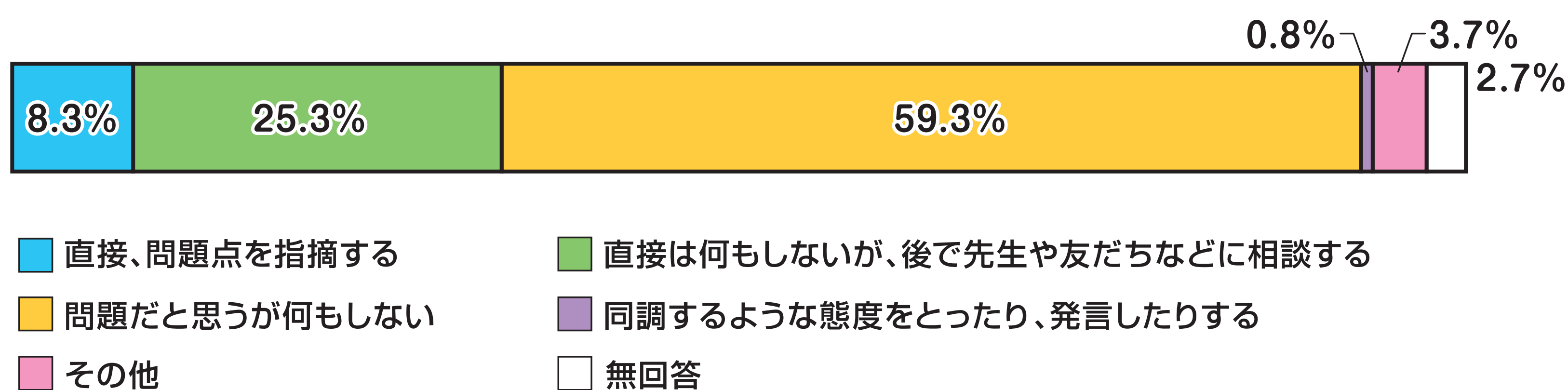


あなたが差別と 出会ったらどうする？

次のグラフは、差別発言や落書きに出会ったときの行動についての生徒アンケート結果です。

Q あなたは、部落問題に関する発言や落書き、インターネット上の投稿に出会ったとしたら、どのように行動しますか。



差別発言や落書きに出会ったときに、「直接、問題点を指摘する」「直接は何もしないが、後で先生や友だちなどに相談する」と行動の仕方に違いがあっても、何らかの行動をすると答えた生徒は33.6%と約3人に1人でした。

一方で、「問題だと思うが何もしない」と答えた生徒が59.3%となっています。「問題」を認識していても「何もしない」ことを選択する生徒が6割を占めています。



差別と出会ったときに・・・

- そこで**指摘**できなければ、発言した相手は、それが差別であることに気づけず、認識できない
- 相手との関係性を考えた時に、言いたくても言えないケースや実際に伝えても理解が得られないケースがあるかもしれない
- その場で指摘したり、正したりできなかった時、どうすべきかを考え、職場の人権担当者や行政の窓口**に相談したり、報告したりして、放置しない**ことが大切です

「差別を解消し、人権が尊重される三重をつくる条例」には、県民の責務として不当な差別その他の人権問題に対して**傍観することなく**、解消に向けてそれぞれの立場において**主体的に取り組む**と規定されています。